



故障予兆の個所特定により、事前の故障復旧対応を可能とします

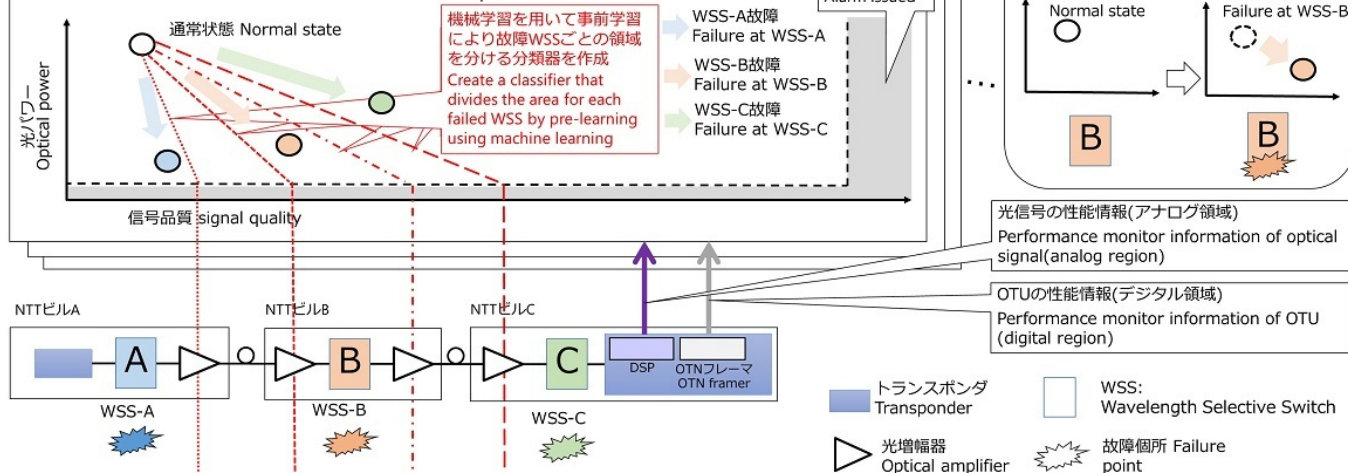
概要

高速大容量・高機能化が進展する光伝送網において、光信号の性能情報を収集・解析して、予兆を用いて大規模故障の被疑部位を特定し、事前・事後の迅速な故障対応を可能とします。

故障評定 Failure localization

WSS故障被疑時の故障個所特定法

Failure localization method when a WSS failure is suspected



特徴

- 光信号の性能情報を収集・解析して、故障予兆個所を特定
- 機械学習を用いて、光デバイスの個体差を考慮して解析

利用シーン

- 経路切り替えなどと組み合わせ、設備復旧までの期間を短期化
- 将来的なオールフォトニクス・ネットワークの信頼性向上に寄与

今後の展開

- 分類器作成における学習に用いるデータを、モデル化により補完することで、実環境でのデータ取得を低減します。

出展社

日本電信電話株式会社、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

問い合わせ先：
rdforum-nw-ml@hco.ntt.co.jp